

耐震強度計算書(アンカーボルト)

「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(一般財団法人 日本建築センター)の第1編 第3章 (設備機器の耐震支持) 3. 2 アンカーボルトによる耐震支持(直接支持)に準じて検討する。

1. 機種 = 空冷式インバータチリングユニット
 2. 形名 = MCAV-P224A, MCAV-P224A-SUS

3. 機器緒元

(1) ①機器質量(運転質量): M M = 205 kg
 ②機器重量: W W = M × 10/1000 = 2.05 kN
 (2) アンカーボルト
 ①総本数: n n = 4 本
 ②ボルト径: d(呼称) M 10
 ③一本あたりの軸断面積(呼径による断面積) A = 0.7850 cm²
 ④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数 nt = 2 本
 ⑤材質 ボルト(SS400)
 (3) 据え付け面より機器重心までの高さ hG = 57.8 cm
 (4) 検討する方向から見たボルトスパン l = 88.0 cm
 (5) 検討する方向から見たボルト中心から機器重心までの水平距離 lG = 37.2 cm (lG/l ≤ 1/2)

4. 検討計算 (各項を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度 : KH KH = 1.0
 (2) 設計用水平地震力 : FH FH = KH × W = 2.05 kN
 (3) 設計用鉛直地震力: FV FV = 1/2 × FH = 1.03 kN
 (4) アンカーボルトの1本あたりの引き抜き力: Rb
 $Rb = \{FH \cdot hG - (W - FV) \cdot lG\} / \{l \cdot nt\} = 0.46$ kN
 (5) アンカーボルトの1本あたりに作用するせん断力: Q
 $Q = FH / n = 0.51$ kN
 (6) アンカーボルトに生ずる応力度
 ①せん断応力度 τ
 $\tau = Q / A = 0.65$ kN/cm² < 許容せん断応力度 $f_s = 10.1$ kN/cm²
 ②引張り応力度 σ
 引張のみを受ける場合の許容引張応力度 $f_t = 17.6$ kN/cm²
 引張りとせん断を同時に受ける場合の許容引張応力度
 $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6\tau = 23.6$ kN/cm²
 $\sigma = Rb / A = 0.58$ kN/cm² < f_t < f_{ts}

(7) 「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(一般財団法人 日本建築センター)の第1編 付表1より (7-1) 箱抜き式J形アンカーの場合

①コンクリート厚さ = 120 mm
 ②ボルトの埋め込み長さ = 70 mm
 ③許容引き抜き力 $T_a = 3.20$ kN > $Rb = 0.46$ kN

(7-2) 後打ち式樹脂アンカーの場合

①コンクリート厚さ = 120 mm
 ②ボルトの埋め込み長さ = 80 mm ※
 ③許容引き抜き力 $T_a = 7.60$ kN > $Rb = 0.46$ kN

※ボルト埋め込み長さの範囲
 ・下限: 80mm
 ・上限: コンクリート厚さ - 20mm

以上の計算より、アンカーボルトは十分な強度を有する。

注. 本計算書はアンカーボルトの耐震強度を計算したものであり、製品の強度を保証するものではありません。